

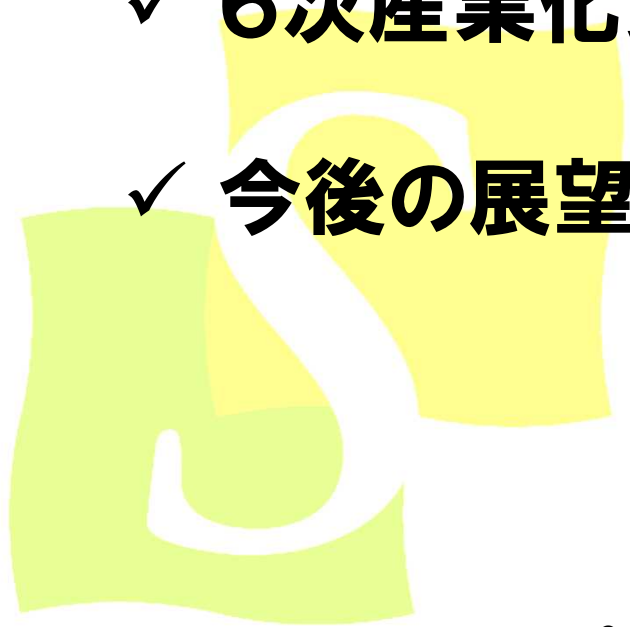
荘内銀行のソリューション営業と 6次産業化支援への活用事例

平成25年3月15日



ご説明のポイント

- ✓ 当行の地域密着型金融に対する考え方
- ✓ 当行の「ソリューション営業」
- ✓ 6次産業化支援の具体的取り組み
- ✓ 今後の展望



地域密着型金融の考え方

発想の 原点

「地域の発展とともにある銀行」として、
地域の皆さまに必要とされなければならない

荘内銀行 企業理念

創意と熱意、卓越した情報力を駆使して、
人々と地域、社会の夢の実現を支援する
「革新の金融情報サービスグループ」を目指します。



**「地域密着型金融」とは
企業理念の実現に向けた取り組みであり
存在意義そのもの**

地域経済は課題が多い



- ✓ 少子高齢化、グローバル化・情報化の進展などによる経済の構造変化
- ✓ デフレの継続、リーマンショック以降の円高などで、地域経済は低迷
- ✓ 東日本大震災からの復旧・復興

グローバル化
情報化

少子高齢化

デフレ
円高

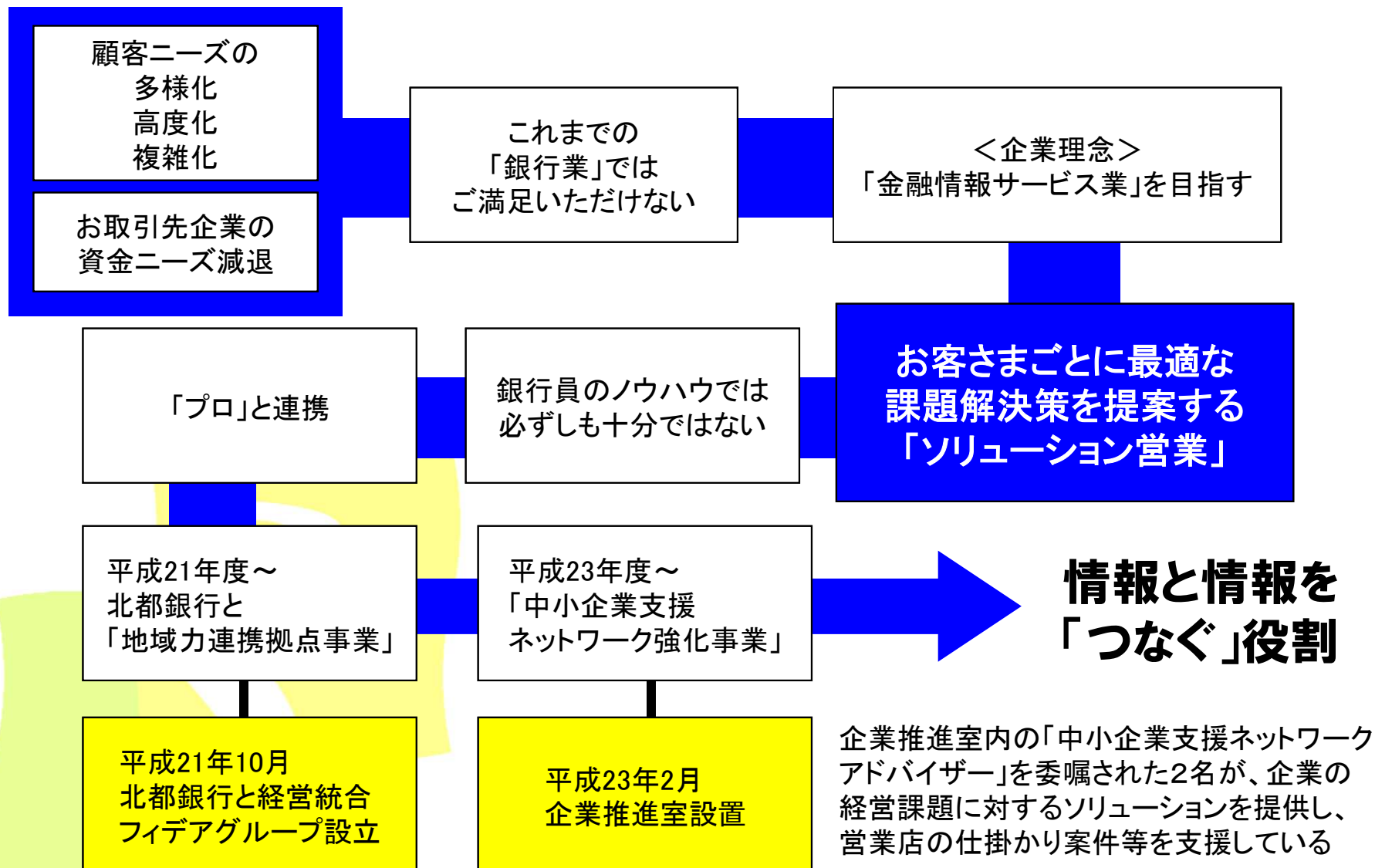
リーマン
ショック

東日本大震災

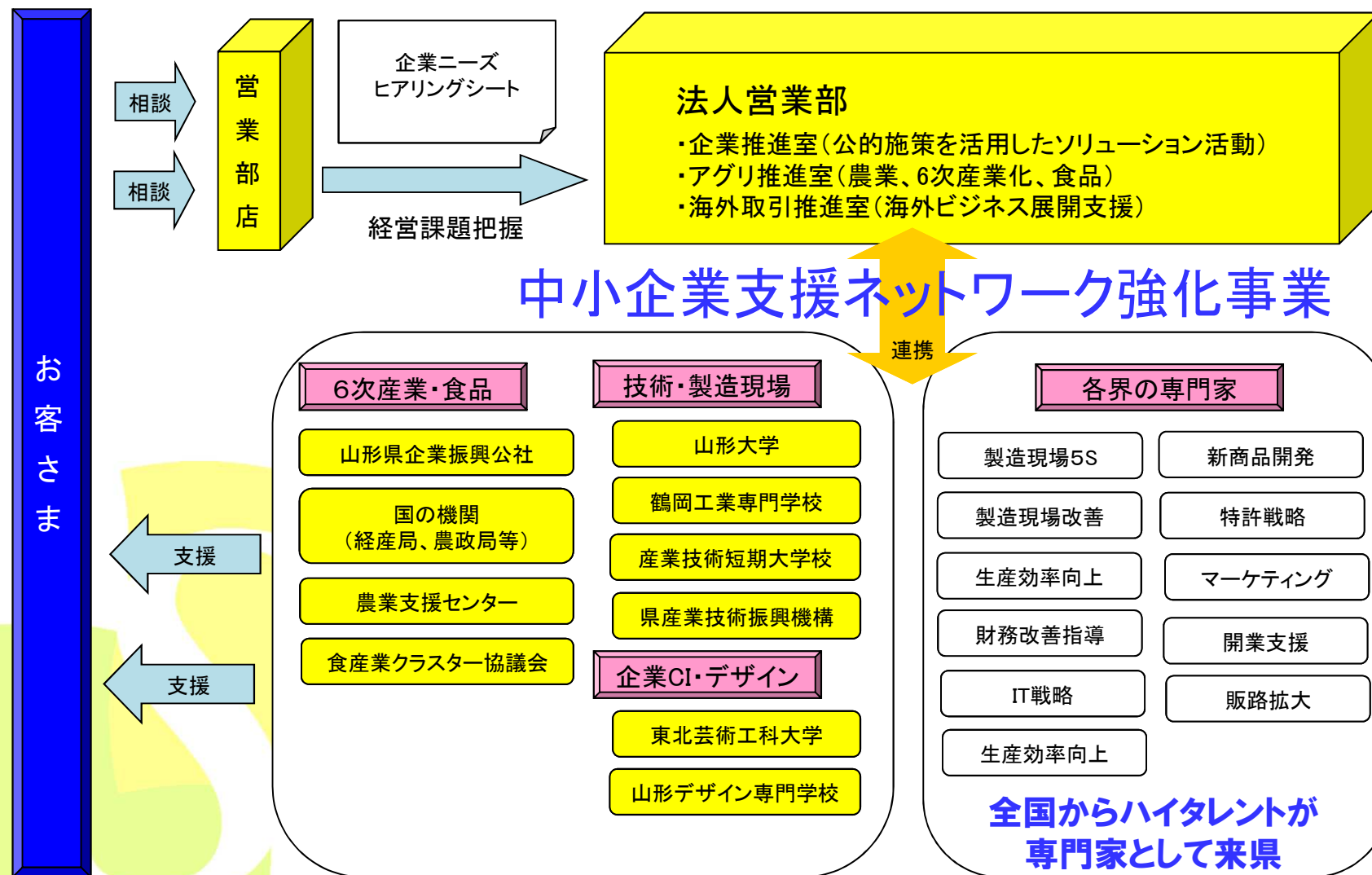


- 外部環境の変化により、地域・顧客のニーズが「多様化」、「高度化」、「複雑化」
- 企業セクターの資金需要低迷

「ソリューション営業」の展開



外部機関との強力な連携



川上から川下まで、専門性の高いスタッフがサポート

成長分野への取り組み

- ✓ 地域に潜在ニーズがあり、ポテンシャルのある産業分野に積極的な取り組みを進めている



農林水産業

特に、農林水産業は

- ① 地場産業
- ② 日本経済を牽引しうる成長産業
- ③ 東日本大震災からの復興における重要な産業

として、大きなポテンシャルを持っている

このほかにも



医療・介護



再生可能エネルギー



観光

やまがた6次産業ビジネス・スクール

～株式会社 フィデア総合研究所～

事業の目的

食農ビジネスの高付加価値を実現するために、社会人を対象に、経営感覚と起業家精神をもって6次産業化に取り組む人材・経営者(及び将来の経営者)を育成する。

事業の概要

●フィデア総研が事務局となり、山形大学、県、農業団体などによる「やまがた第6次産業人材創生コンソーシアム」(※)を組成し、例年、7月から翌年2月まで、週1回程度の講義(視察、実習含む)を開催。

●24年度は東北で唯一、農林水産省の「新事業創出人材育成委託事業」の採択を受け実施。

修了後に想定する人材のイメージ

- ①農業法人経営を革新し、拡大発展をめざす人材、後継者
- ②農業経営を発展させ、多角化を志向しながら高付加価値化をめざす人材
- ③農業経営者をリードして、地域に6次産業化のイノベーションを起こす人材
- ④県内農産物を原材料として、付加価値食品でビジネス確立をめざす人材
- ⑤地域資源を活用して交流、観光と農業を連携させ、グリーン・ツーリズムなどの事業化をめざす人材
- ⑥高付加価値型農業の展開をプロデュースする人材

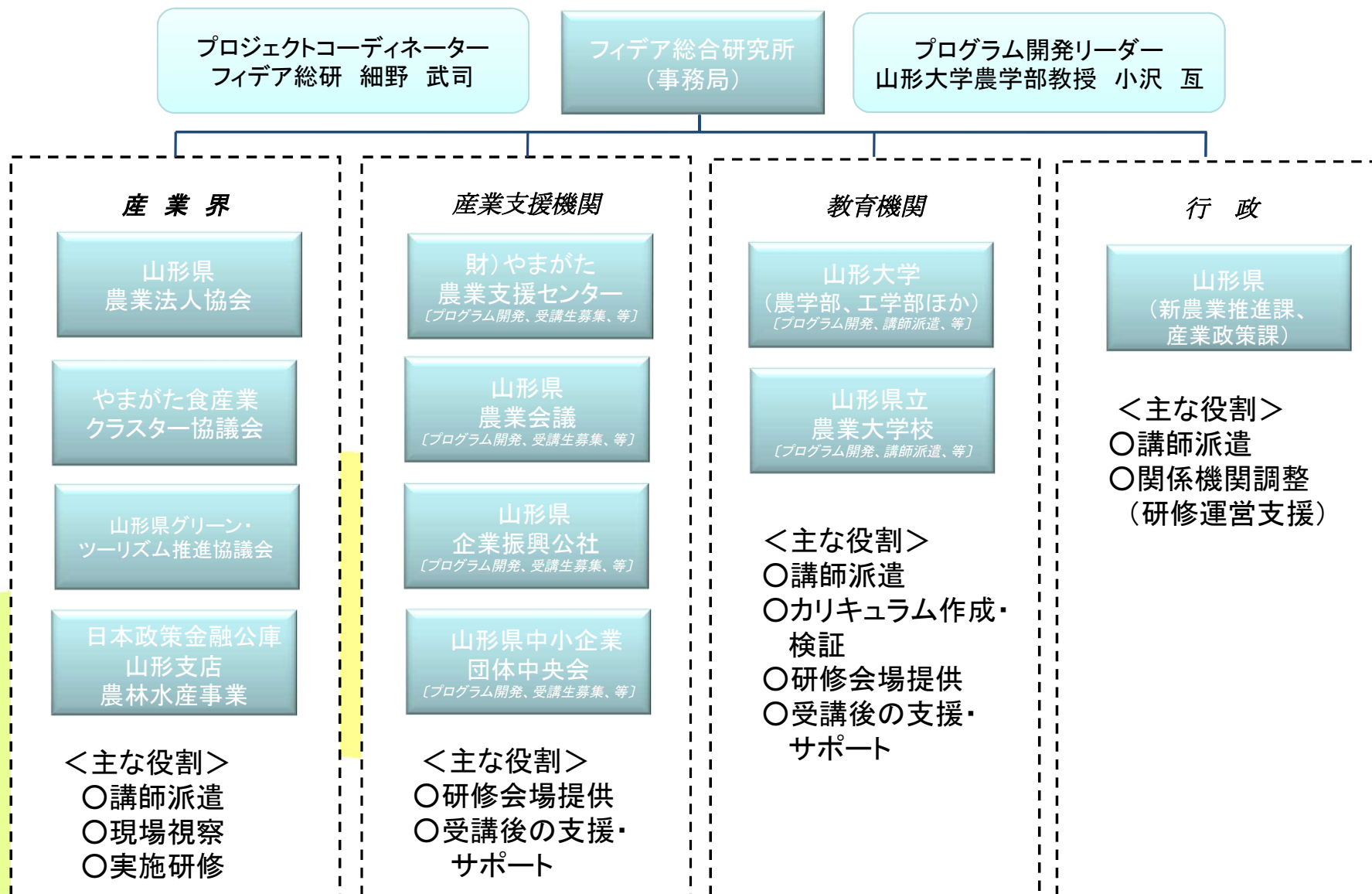
【スクール受講風景】



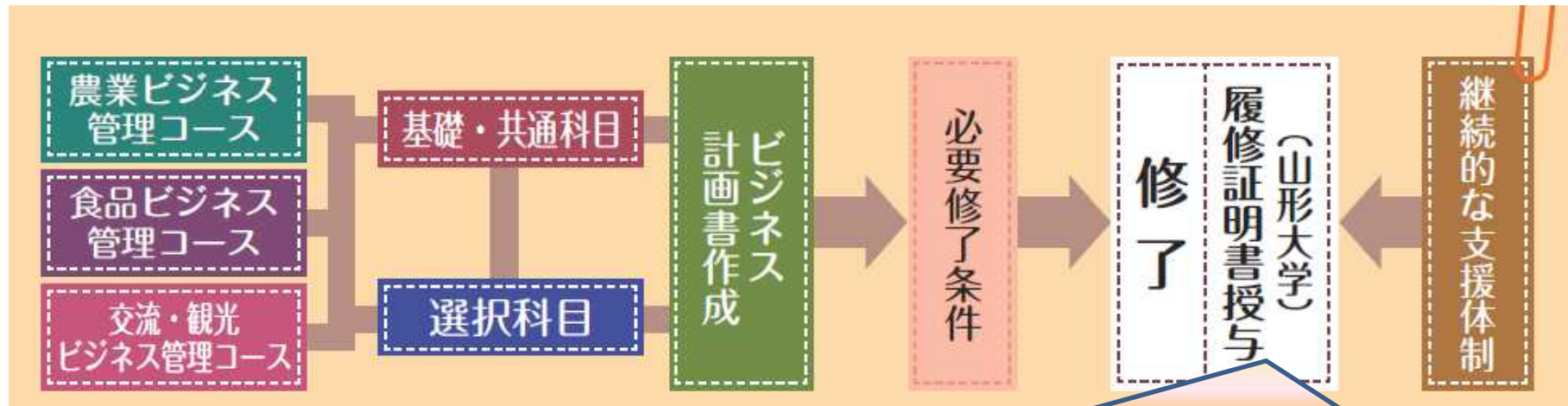
【24年度 修了式 H25.2.27】



※やまがた第6次産業人材創生コンソーシアム



カリキュラムの体系とコース内容



【修了条件】90時間以上の講義修得とビジネス計画書の策定・発表(24年度の場合)

【コース内容】

◆農業ビジネス管理コース

農業をビジネス経営という視点で捉え、農業をベースに高付加価値化を目指して経営の多角化(6次産業化)や法人経営の拡大を図っていくための経営能力を開発する。

◆食品ビジネス管理コース

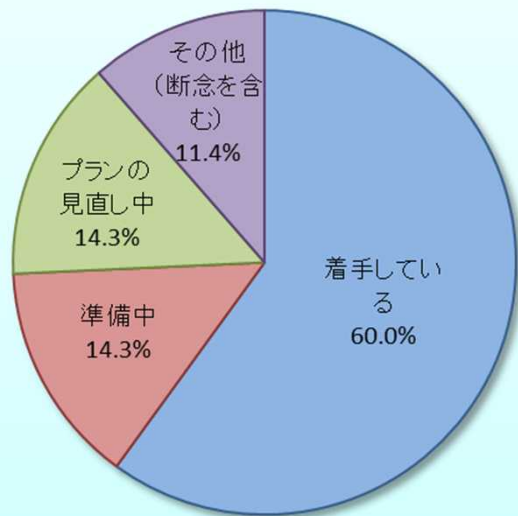
県内(地域内)農産物を原材料として、あるいは生産者と連携して付加価値商品(食品)の開発や販売をするなど、ビジネスの確立をめざす能力開発をする。

◆交流・観光ビジネス管理コース

農畜産業をベースに都市・農村の交流、観光を、経営の一部門として事業展開する能力、あるいは事業に関してアドバイス、コーディネートする能力の開発をする。

修了者の活動状況

ビジネス着手状況



着手している事業内容

①新しい農産物の生産・販売	9名
②共同出荷及び首都圏への直接販売	1名
③加工食品開発・販売	12名
④法人立ち上げ、経営	4名

(平成21年度、22年度卒業生へのアンケート調査)

修了者による主な事業例

水田の作業受託を拡大し、無農薬米、減農薬米の生産販売および蕎麦、もち等の加工食品の生産販売をしている。法人化を準備中。体験型農場を目指す。(農業O)

農産物(米、ニンニク)に付加価値をつけてブランド化を目指している。将来はブランド化した農産物を使つての加工を目指す。(農業I.S)

特別栽培米を首都圏の顧客に販売。椎茸栽培キットの販売。首都圏に3ヶ所中継基地を設け、配送。(農業I.H)

「つや姫」を、もとさわの米「御手作米」として生産・販売(農業T)

「イタリアン野菜プロジェクト」を町の商工会と農商工ファンドを使つて実施。直販とネットで販売。「イタリアン野菜」を目玉に伝統野菜を広め、地域を見てもらいたい。(農業OK)

地元生産者と都市の消費者をつなぐ運送事業(米、漬物、しそ巻き)を展開。(株S)

プリン、人参入りリンゴジュース、生姜入りリンゴジュース、クッキーをイベントに出店。DM、ネットで販売。(株K)

「わら」を原料とした「わらぞうり」を県のグリーンツーリズムで販売。将来は農家民宿を作りたい。(農業S)

「さくらんぼ」を原料とした「さくらんぼソース(お好み焼き用)」を東根市内の会員の店で販売。(農業K)

「さくらんぼ」「桃」「リンゴ」をDM、ネットで販売。自家製の石窯を使ったピザをサービス。(農業I.Y)

「農事組合法人」を立ち上げ。山菜の一次加工品(乾燥)の生産・販売。二次加工品製造工場を整備中。(株Y)

6次産業化の支援事例

～飲食用生食牛肉(ユッケ)提供販売事業支援～

支 援 先：A社(所在地：山形県寒河江市)

設 立：平成8年8月

売 上：45億円

従 業 員：34名

主な業務：「山形牛」の食肉卸と加工製造品の提供

※「山形牛」とは、米沢牛、飯豊牛、天童牛等県産

品質を統一する為に、昭和38年に「総称山形牛」と

して命名されたもの



牛肉取扱企業としての挑戦！

<時代背景>



2011年4月
焼肉チェーン店による
食中毒事件



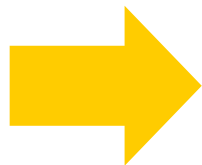
全国の飲食店から
ユッケが消える！



2011年10月
厚生労働省による
厳しい新基準施行

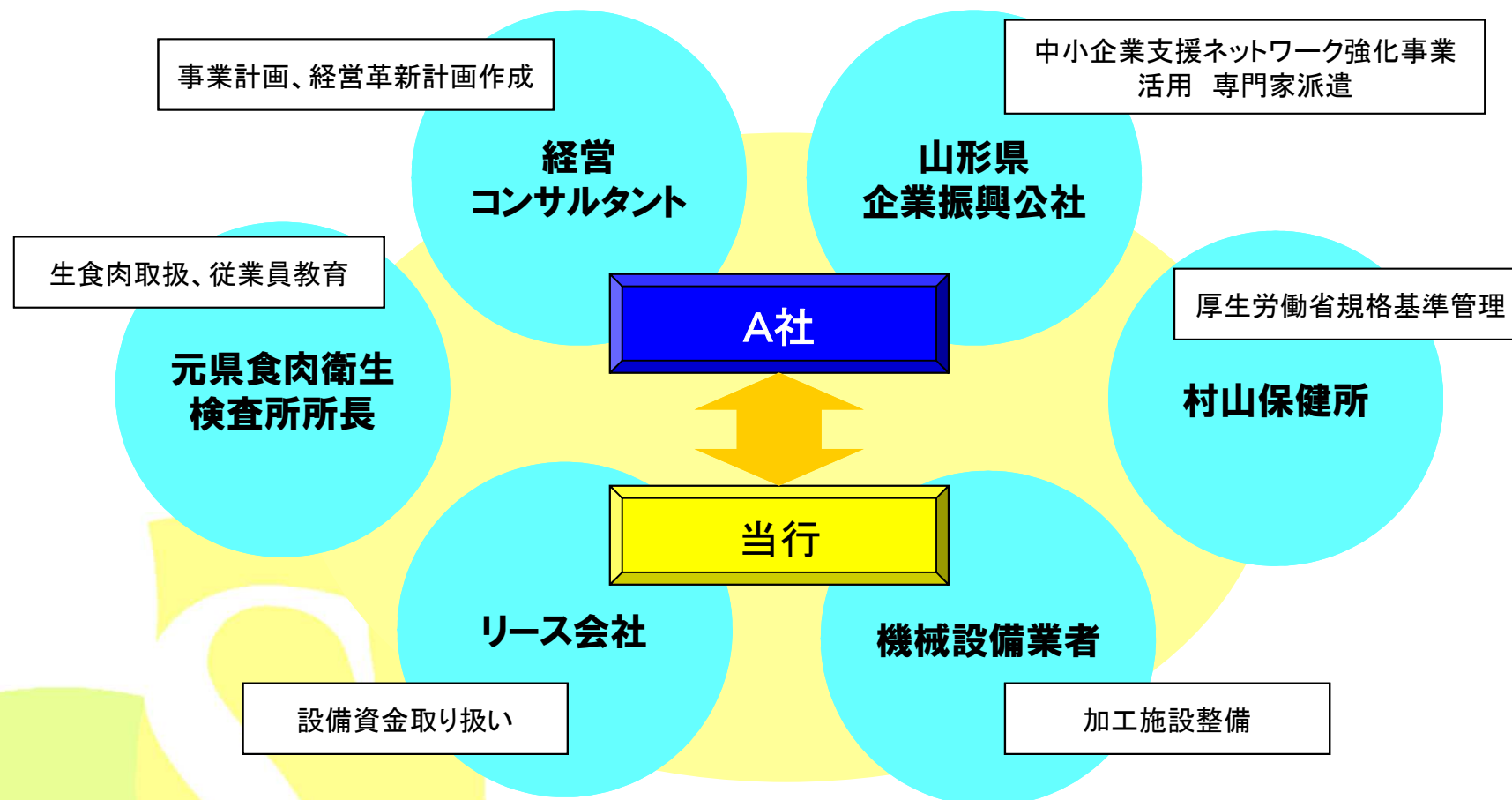
<顧客ニーズ>

「向かい風環境、厳しい新基準はあるが、
生食肉(ユッケ)販売を、新事業として事業化したい」



当行へ相談

プロジェクトチーム組成



生食用食肉新基準をクリアするためのチームを組成

約8ヶ月で生食肉加工施設が完成！

支援により実現した成果

① 全国の飲食店、焼肉店から注文が殺到

⇒ 現在設備を増設中、生産力が倍に
(5月に新施設完成予定)



② 経営革新計画を申請・承認され、設備に対する補助金や
税制面の優遇などのメリットを享受

- ・経営革新計画認定
- ・山形県「創意工夫プロジェクト」補助金採択

③ 他社にない差別化された商品「飲食用生食肉」を
「山形牛」という「地域ブランド」で提供

⇒ 食の都山形の食材として地域の強みをアピール

さらなる6次産業化を継続支援中

6次産業化支援 今後の展望

① グループ力の発揮

- ・ フィデアHD、北都銀行、フィデア総合研究所などグループと連携
- ・ お取引先へのソリューション提供、販路拡大支援を強化
- ・ 被災地域の復興支援としてもグループ一丸となって取り組む
- ・ 「あきた食彩プロデュース」との連携も図る

② 6次産業化支援のための「地域ファンド」活用

- ・ 北都、みちのく、東北各行とみずほFGと連携し、リスクマネー供給とハンズオン強化に向け「農林漁業成長産業化ファンド」の「地域ファンド」を組成する予定

③ 専門家との連携強化

- ・ 「中小企業支援ネットワーク強化事業」は平成24年度で終了
- ・ 新たな枠組みを活用するとともに、専門家との連携はさらに強化し、「つなぐ役割」をこれまで以上に発揮する

ご清聴いただき
ありがとうございました。



庄内銀行



A MEMBER of FIDEA GROUP